



文月 齊 (ふみつき さい)
 埼玉県出身。
 人と街、自然と文化を題材に、
 みちくさばかりの旅を続ける
 エッセイスト。
 函館、埼玉、大阪を拠点に
 旅を満喫中。

善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

127

「大賞確定?」3年ぶりの〇〇

前略、変わりはないか？
 ちよつと先の話なんだけど、暮れになるとその年に流行った言葉を選んだ賞が発表されるよね。そう、流行語なんちゃらってやつ。え、また夏の気配が残っているのに、もう年末の話かって。まあ、鬼が笑う前の年内の話だから気にしない、気にしない。その大賞にノミネートされるんじゃないかって思うくらいこの夏耳にした言葉があるよ。「3年ぶり」って言葉。「3年ぶりの山鉾巡行」とか、「3年ぶりに開催の花火大会」なんて、君もあちこちで見聞きしたんじゃないかな。コロナ禍っていうのはこんなところまで影響を及ぼすものなんだね。

もちろん函館でもイベント関係を中心にこの言葉が使われていたよ。元町公園を会場に行われる「はこだて国際民俗芸術祭」も縮小版ながら開催されたし、夏の風物詩の「花電車」も運行していた。ということは、函館八幡宮の神輿渡御もあるのかなと思つたら、期待通り。ただしこちらは3年ではなく4年ぶり。神輿の渡御は西暦の偶数年に行われることになっているからね。その函館八幡宮なんだけど、今年の春からうどんが食べられるって噂を耳にするようになっていたんだ。門前蕎麦なら聞いたことあるけど、うどんとはまた珍しい。さつそく夏詣がてら足を運んでみると確かにあった。134段続く石段の手前では「うどん」と書かれた幟が翻り、息も絶え絶えに石段を登り、花手水で手を清めて境内に入ると、社務所の前に夜鳴きそば屋を彷彿とさせるシンブルなキッチンカーが停まっていた。車の前には「がまんうどん」と書かれた立て看板。それがお店の名前を現しているのか、メニューの名前なのかは分からないまま、ひとまず案内に従って社務所で食券を購入した。

キッチンカーに戻り、暖簾越しに食券を渡して完成を待つ。中では巫女さん姿の女性がうどんを作っているなんて噂もあったけど、さすがにそれは単なる噂。気立ての良いお姐さんが次々とうどんを仕上げていた。いろいろと質問したいこともあったけど、作業する手を止めてもいけない。遠慮して代わりにカウンター横に貼られた地元新聞の切り抜きに目を通した。さすがは地元紙の新聞記者さんだね。うどん店開店に至るまでの経緯が簡潔にまとめられていて、知りたいことのはほとんどが解決できたよ。

「がまんうどん」というのは店名ではなくてうどんの名前なんだってさ。夏の暑い中、あえて熱々のうどんを食べて涼を感じようという裏技的なネーミングというわけではなく、「がまんさま」という鬼の石像にちなんだ名前なんだそうだよ。うどんはもともと神奈川県横浜市にある菊名神社で始まったもの。「がまんさま」と開運の社」として知られる神社で、そこにある古い手水鉢を支える鬼の石像が「がまんさま」なんだって。神社の案内によれば、200年以上前に築かれた古いもので、長い年月苦難に耐え、同じ仕事に飽きることなく手水鉢を支えている我慢強い姿に由来する呼び名だそうだよ。「人の道も努力・忍耐・継続こそが開運を招く基」。連日多くの参拝者で賑わっているみたいだね。函館八幡宮と菊名神社との間に交流があつて今回のオープンとなったみたいだけど、「がまんさま」にあやかっただうどんを食べて、何かと我慢を強いられるコロナ禍を乗り切ろうってことかもしれないね。

気になる味のほうだけど、これが意外にも君の暮らす街でよく食べていた懐かしの関西味。まさか函館の神社の境内で、あの商店街の立ち食いうどんの味が楽しめると思つてもみなかった。土日祝日限定の営業だけど、これはしばらく通うことになりそうだな。

え、どこまで似ているのか食べてみたいって？今月は3連休が続くから食べに来るといいよ。あ、そうだ、そのときにはスーパード「かす」を買ってきてよ。そう、かすうどんの「かす」。かすうどんにすると更に美味しくなりそうなお汁なんだよ。新メニューにどうでしょうかって、宮司さんに勧めてみようかな。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索